

カルメル
霊性センターニュース



2025年1月 415号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
京都	2 5
名古屋	2 9
諸所の企画案内	3 0
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 8

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第四章 敬虔に聖体を拝領する者には、豊かに善が与えられる

3 燃えさかる火の近くに

私の靈魂の慰め、「魂の支え手」(詩編 54・6)、すべての内的な慰めの与え主である神よ、あなたは、敬虔におんからだを拝領する弟子たちに、この秘跡において多くのよいものを与えて続けてくださいます。

あなたは患難の時に慰めを与え、悲嘆の底からあなたのご保護への信頼に導き、新たな恵みをもって内的に力づけ、照らしてくださいます。こうして聖体拝領の前に、不安がいっばいで愛を知らなかった人々は、天の食べ物と飲み物に力づけられ、自分たちが強められたと感じます。

あなたが選ばれた者たちにこのようにおこなうのは、彼ら自身がどれほど弱い者であるのか、あなたからどれほどの恵みを受けているかを心底から認め、体験させるためです。彼らだけではなく私も、冷たく、かたくなで、不信心な者ですが、あなたの助力によって、熱心になり、活発になり、敬虔になることができます。謙虚な心をもって甘い泉に近寄り、その甘さを受けずに去る者はいないでしょう！燃える火のかたわらにあって、その熱を受けない者はいないでしょう！そして、あなたはつねに満ちあふれる泉であり、尽きることなく燃えさかる火です。

4 あなたが補ってください！

私はこの泉から十分にくむことができず、満足するほど飲めません。私は、いくらかでも渴きをいやし、また、まったく渴ききることのないように、その泉の水の一滴を受けようとして、天の器に近づこうとします。私はケルビムやセラフィムのように天まで上げられず、神の火に燃え立っていません。しかし、信心を強めようと努力し、謙遜にこのいのちの秘跡を拝領することによって、神の愛の炎から少しでも熱を受けようと努め続けます。おおイエスよ、救い主よ、私の足りないところを、あなたの慈悲と恵みによって補ってください。あなたは「労苦する者、重荷を負う者は、すべて私のもとに来るがよい。私はあなたたちを休ませよう」(マタイ 11・28)と言われ、すべての人をお召しになったからです。

5 心の叫び

私は額に汗して労苦し、心は苦しみもだえ、罪の重荷に打ちのめされ、いざないに悩まされ、邪欲に囲まれています。私の主なる神、「私の救い主よ」(詩編 25・5)、あなた以外に、「私を助ける者はなく」(詩編 22・12)、「私を解放する者もなく、私を救う者」(詩編 7・3)もおりません。あなたに、私と私のものすべてをゆだねます。あなたが私を救い、永遠の生命に導いてください。食べ物と飲み物としてあなたのおんからだとおん血とをくださった主よ、み名のほまれと栄光とのために、私を受け入れてください。

「私の救い主、主なる神よ」(詩編 27・9)、あなたの秘跡をたびたび受けるにつれて、私の心に敬虔の熱をますます燃やしてください。》



バチカンの聖ペテロ大聖堂
の聖なる扉

主がみ顔を向けてあなたを照らし
あなたを守られるように
あなたに恵みを与えられるように
主がみ顔をあなたに向けて
あなたに平安を賜るように

民数記6・24

新年は「神の母」の祝日ではじまります！
神がマリアを選び、無原罪のおん宿りの恵みを与えて
神の母とされたことは、まったく無償のたまものです。
神はただ、ご自分の中からあふれ出る
「自らを与えたいという望み」に従われたにすぎません。
神から溢れ出るもの、それは愛であり、
神のうちにあって広がってゆこうとする神の愛の力を受け取る器、
つまり人間の側には、どのような基準をも設けることはできません。
神ご自身が、ご自分の僕の小ささに身をかかめられるのです。*



神の母マリア

～福者マリーエウジェヌ神父 ocd～

テレーズ列聖百周年

二〇二五年を「よい年」とするために、大きな希望をもって神に向かって
歩み続けたいものです。神の慈しみに希望を置く強い翼をもって。
わたしたちは神の子なので、父なる神は愛のまなざしをわたしたちに
注いでくださいます。わたしたちの弱さや心理的状況とは無関係に、
神の愛のまなざしはわたしたちを常につつんでくださいます。



伊従 信子(いよりのぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのりの道をゆく』 聖母文庫、聖母の騎士社

フランシスコ教皇の言葉 ⑨

神にとっては、偉大な人物や有力な人物ではなく、
小さく、謙虚な人たちがこそが希望なのです。

人は何と表面的なことにとらわれることでしょうか。表面的なことと言っても、単に容姿とか衣服や持ち物といったことではありません。もちろん、それにも大いにとらわれます。容姿一つとっても、人は態度を豹変します。

それだけではなく、学歴や職業、地位や肩書、知名度や評判など、目に見えないものにも大いに左右されます。それらはみな、収入、お金に関わって来るからです。医者や弁護士は、その高度な専門性ゆえに高額な収入が見込まれます。スポーツ選手、歌手や俳優、タレントも同様です。

しかし、神さまの前には、どれだけ立派な仕事をしたか、どれだけ政治的社会的に有能で、有名であったかなどは、まったくどうでもよいことです。十字架の聖ヨハネは、こう言っています。

神は愛の他に何ものもお喜びにならない。…われらのすべてのわざ、すべての労苦は、たとえそれが、いかに大きなものであろうとも、神のみ前には無にすぎない。…神はただ一つのことだけを求められる。それは、霊魂から愛されること。(『霊の賛歌』28・1)

(P. 九里)

P.S. 「フランシスコ教皇の言葉」は、カルメル会のHPの「霊性センターニュース」に掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (197)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

まったくヒューマニズム (2)

愛は人の中で成長し、神の働きにできるだけ自由に、できるだけ自発的に、自分をゆだねるようになります。「(神は)、靈魂のあらゆる力、能力、欲求を、靈的なものも感覚的なものも、すべて内に集中させ、この完全な調和の中で、その力と徳とをこの愛のために使うようにさせ、こうして『あなたは、心を尽くし、精神を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして神を愛せよ』(申 6・5) と命じる第一の掟を、真に実行することができるようにさせる。人間のことを何も拒絶することなく、この愛から人間的な事柄を排除することもなく」(『暗夜』第2部 11, 4)。

このテキストの重要さは、きわめて大きく、特に私が気に入っているのは、人間的なものがここで力強く肯定されていることです。

人間のことを何も拒絶することなく、
この愛から人間的な事柄を排除することもなく

要するに、ここで問題となっているのは、人間的なものを軽視もせず、拒絶もせず、除外もせず、それらをすべてすっかり受け入れているということです。この受容というか崇高化からは、ただ人間的でないもの、ひと言でいえば「罪」だけが除外され、拒絶されています。罪は、人間がどんなにたくさんの罪や過ちや間違いを犯した、あるいは犯しているとしても、人間を形づくるものでも、その存在を規定するものでもないということです。

(続く)

P. 九里訳

主の公現の祭日 (C)

(マタイ 2 : 1 - 12)

主の公現の祭日とは、出現或いは新事実の発見のことです。私たちにとっては、神がキリストのうちに現われたことを意味しています。

聖霊はイエスの最初の出現をユダヤ人ではない人たちに話しています。東方の三博士はここで非ユダヤ人を象徴しています。彼らは王を崇め、敬意を示すために来て跪まずき、敬意を示しました。彼らは神の出現を見る特権を持ち、新たに産れた王である幼子を見てひどく喜びました。彼らが捧げた贈りものの、黄金、乳香、没薬は幼子の王権、神性、人間性の象徴てきなものでした。「わたしは彼らの神となり、彼らは私の民となる」と言われた通り、ユダヤ人は、まさに選ばれた民族でありました。しかし、博士たちにおいて、神はユダヤ人だけではなく全ての民が神に愛されるものであることを明らかにされました。もはやユダヤ人と異邦人の間に分け隔てはありません。私たちは皆選ばれた民であります。イエスが私たち一人ひとりを神の王国に入るように呼びに来られたからです。

イエスを探しにベトレヘムやエルサレムへ行くことはできません。導き手として星のしるしを見ることもありません。むしろ、私たちは兄弟姉妹の中にイエスを認めるために彼らを親密にみなければなりません。神の出現は、今日様々な方法で起こっています、神の創造の中に、言葉の中に、私たちの仲間の中に。しかし、私たちはイエスを真に認めているでしょうか？ 懸命に、誠実に見るときのみ、イエスを見つけることができるのです。私たての生活は、絶え間のない神の探究でなければなりません。ご公現は過去の出来事ではありません。今、ここで起こっています。ご公現は、祈りや、ミサの祭儀のために集まっているとき起きています。イエスは私たちを癒し。力づけてくださいます。ご公現は、私たちの生活においてだけではなく、自分自身や共同体の中で起こります。神の愛は終わることがありません。全ての人に救いをもたらしたイエスにおいて、現わされました。私たちは、自分の言葉や、行いによってイエスの仕事を続けなければなりません。

(Sr. Pauline)

主の洗礼（C年）

（イザヤ40：1-5， 9-11、ルカ3：15-16， 21-22）

今年も待降節の中で Rorate caeli をミサの初めに歌いました。

今日のイザヤ 40 章 1 節「慰めよ、わたしの民を慰めよと あなたたちの神は言われる。」は、Rorate caeli の四番の初めの歌詞になっています。

主の洗礼、クリスマスの秘儀である主の顕現秘儀と年間の境目。

主の洗礼までで幼子イエスの隠れた生活を思い起こし、主の洗礼で成人を迎えたイエスが具体的にこの世に神のメッセージとわざを告げ知らせて行きます。

主の洗礼から公生活、年間が始まります。

主の洗礼は年間の初めでもあり、ご降誕のメッセージの連続でもあります。

Rorate caeli desuper et nubes pluant justum（天よ、露を滴らせよ。雲よ、正義を注げ：イザヤ 45:8）。

イザヤ 45 章 8 節はこの後に、「地が開いて、救いが実を結ぶように。恵みの御業が共に芽生えるように。わたしは主、それを創造する」が続きます。

マリアの「はい」を通して、幼子イエスの誕生によって、恵みの御業が芽生えました。

神の熱意がそれを創造させたのです（イザヤ 9:6）。

また、神の熱意に応えたマリアの「はい」によって「地が開かれた」のです。

今日の主の洗礼の祝日は、待降節、ご降誕、降誕節によって育まれたこの若枝が成長し、いよいよ外に向かってイエス・キリストが力強く神の支配を告げ知らせ始めるお祝い日です。

私たちも年間、普通の日において、力強く語り続けておられる神の熱意を聞くことが出来るように恵みを願いましょう。

（P. 志村）

年間 第2主日 (C)

(ヨハネ 2 : 1 - 12)

聖書で証されているとおり、イエスは受肉されたみことばです。「神よりの神 光よりの光」であり、神はイエスと共におられ、イエスから「力が出た」のです。今日の福音ではイエスは水をぶどう酒に変えられました。

ヨハネによると、これはイエスの最初の奇跡であり、ガリラヤ地方の小さな村のカナでの婚礼で起こりました。ヨハネが福音書を記したのは、イエスが待ちに待たれたメシアだと証明するためでしたので、カナの婚礼での奇跡もその証拠の一つとして挙げられました。

聖書上、婚礼は神とその民との間の関係性を描くために使われます。水をぶどう酒に変える奇跡は、世界における神の現存が正式に始まったことを示します。最後の晩さんでは、イエスはぶどう酒をご自分の御血へと変えました。イエスが語る「わたしの時」とは、受難・死・復活を通じて現れるご自身の栄光を意味します。

マリアは非常に大きな役割を果たします。恥をかく状況から若い夫婦を救うために動きます。聖母は、この状況を打破できるのはイエスだけだと分かっていたのでイエスの元に行きます。そしてイエスは母の願いを聞き、不思議なわざによって大問題を解決してハッピーエンドを実現しました。こうして母のとりなしによってイエスは最初の奇跡を行ったのです。

マリアは、救いのわざにおいて必要不可欠な存在です。福音書にも「イエスの母がそこにいた」(ヨハネ 2 : 1) と記されています。喜びや悲しみの中でも、順風満帆な時も苦難の時も、マリアは神のご計画に協力し、最も大事な人生の局面においても信仰を失いませんでした。人類の母であるマリアを通じて、私たちはイエスと神に近づくことができます。必要な時に必ずとりなしてくださる母を与えてくださった主に感謝しましょう。救い主イエスは、私たちの母のとりなしのおかげで私たちの祈りを聞いてくださるのです。

(Sr. Paulina)

年間 第3主日

(ルカ 1 : 1-4、 4 : 14-21)

年間第3主日は、「神のことばの主日」。神は私たちに聖書の「みことば」を通して、ご自分の想いを私たちに語られます。私たちに語られる「神のみことば」を大切に心に留めながら、思い巡らしながら、神様とともに過ごしてゆくことができますように。

今日のみことばの箇所は、ルカ福音書冒頭、イエスが荒れ野で誘惑を受けられた後、公生活の初めで、「…敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので…」と書かれています。同じ様に新約聖書の使徒言行録の冒頭には、「テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが行い、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。」…とあり、ルカ福音書、使徒言行録が同一の著者による書物であることがわかります。このことをあらためて心に留めておきたいと思います。

さてイエスは公生活に入られました。“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られ、評判がその地方一帯に広まった、そして諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられたとあります。その様な中、イエスがガリラヤに戻って来られ、人々は心待ちにしていたのでしょ。

安息日に会堂に入られ、聖書朗読のためにイエスはお立ちになりました。ユダヤ教の決まりを守り、安息日を大切に、神のみことばを大切になさる姿がそこにあります。そして預言者イザヤの巻物を渡され、開いた箇所をお読みになりました。

「主の霊がわたしの上におられる。主がわたしに油を注がれた。わたしを遣わされたのは、主の恵みの年を告げるため。」この言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現したと話し始められました。聖書の言葉、神のことばは、イエスを通して実現してゆきます。そして神の国の福音が告げ知らされ、父なる神はイエスを通して救いの御業を行われます。

会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた様に、私たちも私たちの目、心の目をイエスに注いで、イエスの語られる言葉に耳を傾けましょう。イエスを眺め、イエスから学び、イエスの様に、神への愛に、人々への愛に生きることができますように。私たちのうちに神のみ旨、神のご計画が実現してゆきますように。

(Fr. 古川利雅)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。

<< Communications (時事通信) >>

2024年11月12日

跣足カルメル修道会アジア・オセアニア地域の代表者会議 開催



この会議は、2024年8月27日～29日まで、オーストラリアのシドニー郊外のヴァロヴィルにあるマウントカルメル黙想センターで開催されました。参加者は、オーストラリア、フィリピン、韓国、インドネシア、台湾-シンガポールと日本の跣足カルメル修道会の上級長上と顧問達、そして総長顧問クリスティアヌス・スリノノ神父が臨席されました。

会議では、2023年8月にフランスのリジューで開催された跣足カルメル修道会の総会で決議されたアジア・オセアニア地域の再編成について議論されました。そしてこの地域での今までの養成の成果を踏まえ、今後協力できる可能性のある分野、特に第二修練を合同で実施できる見通しについて、更に調査することが決定され、この目的のために養成のプログラム、内容、会場、時間と日程の枠組みを立案する委員会が設立されました。代表者たちは、この多様な地域から養成に携わるための養成担当者リストを作成することや、養成プログラムを実施するための必要経費についても議論しました。

会議中、代表者たちは、ローマの跣足カルメル修道会本部の総長顧問会とのコミュニケーションを改善するための方法を提案しました。続いて、クリスティアヌス神父は、代表者たちに、改訂された『養成要綱』について伝えられ、この改訂版『養成要綱』を読んで学習する上でのフィードバックの提出を彼らに求められました。

(訳・注:小宮山延子)



いのちの言葉 1月

生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。

このことを信じるか。』

(ヨハネによる福音書 11・26)

イエスは、4日前にラザロが亡くなった町、ベタニヤに向かっておられます。ラザロの妹であるマルタは、イエスがこちらに向かっていると知り、希望に満たされてイエスを迎えに走ります。ヨハネの福音書は、イエスがマルタとその姉妹マリア、そしてラザロをととても愛しておられたと記述しています。²マルタは深い悲しみにありながらも、もしイエスがここにおられたならラザロは死ぬことはなかったでしょうに、とイエスへの大きな信頼を示しました。そして彼女は、イエスが神に願われることは何でも神は叶えてくださると確信していました。そんな彼女に、イエスは「あなたの兄弟は復活する」と言われました。(ヨハネ 11・23)

このことを信じるか？

イエスは、ラザロの肉体の命はこの場でよみがえる、しかし、それは信仰者がその死後待つ永遠のいのちへの蘇りではないことを明確にされた後、このことを信じるか？とマルタに問われます。イエスは単に、福音史家ヨハネが「しるし」と呼ぶ奇跡のひとつをここで行おうとされたわけではありません。マルタ、そして、イエスを信じるすべての人に復活と新しいいのちを与えようとおられたからです。イエスは「わたしは復活であり、命である」(ヨハネ 11・25)と言明されます。イエスが、マルタに求められた信仰は、イエスとのふかい個人的な関係、そして、積極的で行動的なイエスへの信仰でした。信仰とは、ひとたび署名をしたらもう目に留めないような契約書ではありません。その人の日々の生活をまったく新たにしながらあらゆる面で生活にふかく浸透していくものです。

このことを信じるか？

イエスは、私たちにも新たないのちに生きるよう招かれます。ご降誕をとおして私たちが再発見したことは、イエスご自身がまず先に私たちを探し求め、私たちの間に住まわれるために地上に来られたということです。こうしてイエスは私たちに新たないのちを与えてくださいました。

では、「このことを信じるか？」というイエスの問いかけに私たちはどう答えたらよいでしょう。ラザロの妹、マルタは何と答えたのでしょうか。イエスとの対話の中でマルタは全面的に信仰を告白しました。ギリシャ語の原文では、彼女の信仰が非常に力強く表現されています。彼女が宣言した「信じます」とは、「信じるようになりました」という意味であり、「あなたが世にこられるはずの神の子、メ

シアである」³と「固く信じております」という意味です。マルタの信仰は、彼女が生涯を通して味わったさまざまな出来事によって裏付けされた確固たるものでした。

イエスは、私にも「このことを信じるか？」と問われます。イエスへの全き信頼とともに、すべての人にイエスが示された寛大で具体的な愛を私にもお求めです。私たちの信仰は、忍耐によって成熟し、イエスのみ言葉にある真理が実践されるのを体験することで強められます。そして日々の生活の中で周りの人々に対して具体的な形で表されるものとなっていくでしょう。「わたしどもの信仰を増してください」（ルカ 17・6）とイエスに願う使徒たちの祈りを自分の祈りといたしましょう。

このことを信じるか？

南米から来たパトリシアが話してくれました。「私の娘の一人は、公的機関で働いていましたがある時、政府によって一方的に事務所が閉鎖され、彼女も同僚たち皆も職を失ってしまいました。そこで彼らは勤務していた事務所の前に野営テントを張って政府に対して抗議運動を始めました。私も娘たちを助けたいと思い活動に参加したり、食べ物を持っていったり、そこで話しを聞いたりして支援しました。

ちょうど聖木曜日の日のことでした。彼らの窮状を知り支援していた司祭のグループは、イエスが十字架につけられる前、弟子たちの足を洗われたことを思いそこにいる人々のために、福音を朗読し、洗足式を執り行いました。信仰をもたない人が大半だったにもかかわらず、参列した人々みんなの間に深い絆と友情、そして希望が生まれる瞬間となりました。彼らは自分たちがとても温かく迎えられたと感じていました。そして不安と苦しみにある自分たちに寄り添ってくれている司祭たちに深く感謝し感動していました」。

今月のみ言葉は、2025年のキリスト教一致祈禱週間の指針として選ばれたものです。私たちがもつ共通のイエスへの信仰が、すべての人と兄弟愛を深めていくための原動力となりますように。兄弟愛を深めることこそ、神から人類への提案であり人類にお望みになることであり、神は私たちの同意をお求めになります。神へのこの信頼のもとに生まれる祈りであり、行動であるならば、私たちの働きはきっと豊かな実りを結ぶものとなるでしょう。

シルヴァーノ・マリーニと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会「新共同訳」「聖書協会共同訳」

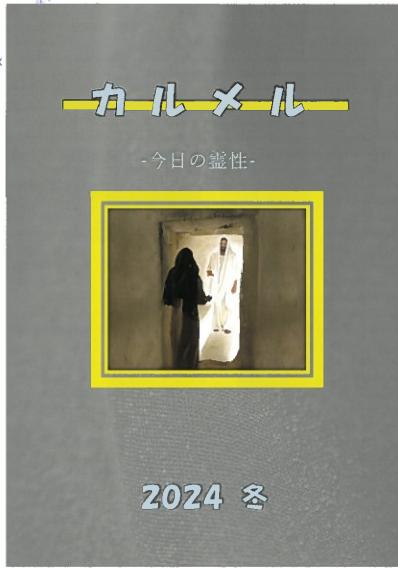
2. ヨハネ 11・5

3. ヨハネ 11・27 参照

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

カルメル誌 新刊案内



2024年 冬号 No.395

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(8) 鶴岡賀雄

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—創世記一章① 志村 武

1915年のエディット・シュタイン
—メーリッシュ・ヴァイスキルヘンにて 釘宮明美

テレーズ列聖百周年に向けて
—救い主イエスを待ち望む 伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ=神のいのちへの道(4) 椿 権三

風に吹かれて再び(10)—あるがままに 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(12) 九里 彰

霊的研究会講義録(26)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2024年 四旬節特別号

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ
信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)

聖テレーズ生誕 150 周年記念 教皇
フランシスコ使徒的勧告「信頼」に導かれて

わたしは愛になりました —愛の道を飛んでいくために 今泉 健

詩「むしられたバラ」より —テレジアの愛の道 九里 彰

テレーズの信頼の道・小さい道と
ヤコブ・イスラエルにおける小さい道 志村 武

現代の闇を照らす灯火
—テレーズの進行の試練 片山 はるひ

小さな 偉大さ 伊従 信子

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円 (+送料 140円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年 5冊 : 春夏秋冬+特別号 計 3,600円) を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当: 内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

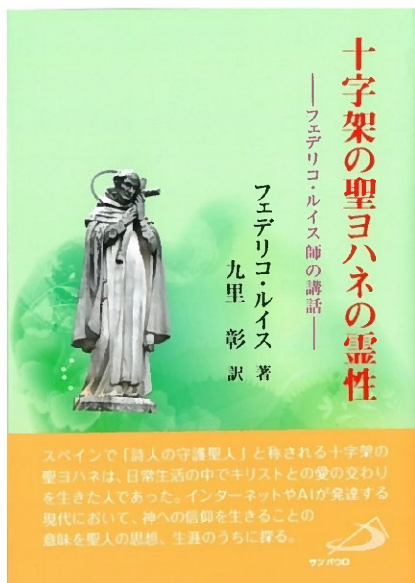
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 誓 愿(1)
 - 第2章 誓 愿(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対 話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英 知
 - 第18章 活 動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
 北アイルランドのベルファストに生まれる。
 イエズス会に入会し、26歳で来日。
 32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

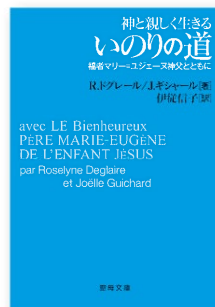
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



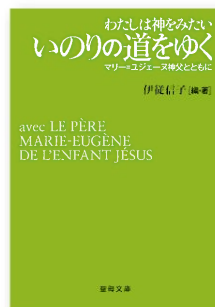
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

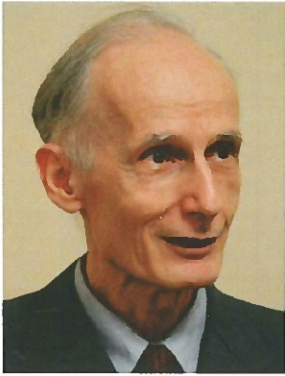
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 — 宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 — 聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い — キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 — 哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 — 根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2024年4月～)

- ・ 聖書深読黙想会 (土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士
2024年
4月 20日～21日
5月 25日～26日
7月 27日～28日
9月 28日～29日
~~11月 9日～10日 中止~~
→11月 30日～12月 1日
2025年
1月 11日～12日
3月 15日～16日
- ・ 奉獻生活者のための黙想会 (初日 17時～最終日朝食) カルメル会士
~~2024年 8月 16日 (金)～25日 (日) 中止~~
12月 27日 (金)～1月 5日 (日)

★教会の祈り (時課の祈り) を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・ 介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・ 上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・ 個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・ 部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2025年1月～2025年3月)

【一般のための黙想】1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時）中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時）中川博道神父

2025年

1月11日 3月15日

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時）中川博道神父

2025年

1月22日 **変更** ~~2月19日~~ → **2月12日** 3月19日

【祈りの学校 入門編】（火曜 午前10時～午後4時）松田浩一神父

2025年

1月7日 **中止** ~~2月4日~~ 3月25日

【祈りの学校 教会の祈り】（木曜 午前10時～午後4時）松田浩一神父

2025年

1月23日 2月13日 3月20日

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

2024年

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父(一般可)

2025年

3月4日(火)～13日(木) 中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

2025年

3月22日(土) 午後5時～23日(日) 午後5時

(日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定)

教皇文書：『信頼への道』

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「祈りの学校」(2025年1月-3月)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(カトリック教会の祈り)：1月7日(火) ~~中止~~ ~~2月4日(火)~~ 3月25日(火)

*日時(典礼憲章・啓示憲章)：1月23日(木)、2月13日(木)、
3月20日(木)、

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導：松田浩一 神父(男子カルメル修道会)

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ(*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7457

E-mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カトリック教会 カルメル 青年たちの学び

リジュアの聖テレーズの『信頼への道』

日時：③ 2025年3月22日（土）PM5時～3月23日（日）PM5時
（尚、日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定）

教皇文書：『信頼への道』



イエスのテレサ



リジュアのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対 象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2025年1月18日（14：30～16：30）

サムエル記の全体構造とメッセージ③

—ダビデの霊性と人間像—

その後の日程：2025年2月15日、3月15日、4月26日

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2025年3月8日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：今泉健神父

テーマ：四旬節を十字架の聖ヨハネに倣って歩む

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：2025年6月28日（九里彰神父）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター サダナ瞑想 慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」
「主の恵みの年を告げ知らせるために」
(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00~15:00)
予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは—新しい始まりの希望：聖年を迎える
2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」—教皇フランシスコの呼びかけ
3月13日 「希望の巡礼者」—イエス様とともに歩む
4月10日 「希望」と信仰—希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
5月 8日 「希望」と愛—希望は神の愛に基づいています
6月12日 「希望」と愛の業—希望は愛の業によって現れる
7月10日 「希望」と祈り—希望は祈りによって養われる
8月 休み
9月11日 「希望」と平和—主は与えてくださる平和における希望
10月 9日 「希望」と福音宣教—世界に希望を届ける、教会の使命
11月13日 「希望」と神の国—神の国の到来を待ち望む
12月11日 「希望」と喜び—神の訪れはもたらす贈り物。



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先
真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
Tel:0968-85-3100
Fax:0968-85-3186

真命山

祈りの家 と 諸宗教対話センター

言葉は肉となってわたしたちの間に宿られた(ヨハネ 1.14)

親愛なる真命山の友人および支援者の皆様
主のご降誕祭と新年を迎える準備を進める中で、私たちはこの年を豊かにした出来事や出会いを思い起こし、特に皆さまのご理解とご協力にあらためて感謝申し上げます。キリストの平和の光が、この聖なる季節と新しい年の上にありますように。



真命山での活動 ご訪問・ご来山客

毎月の祈りの集い：今年も1月から、第2木曜日に月例の「真命山祈りの集い」を行い、祈りの友である皆さまとともに祈りと瞑想の日を過ごしました。今年のテーマは「山上の説教 真の幸い八か条」でした。



研修会：北九州市立医科大学の学生が夏季研修会に來山しました。例年通り、研修は諸宗教の視点から人間の生命の意味と価値に焦点を絞りました。

第十六回平和の祈りの集い、隔年の集まり：

10月6日(日曜日)、真命山で第十六回諸宗教代表者による「平和の祈りの集い」を特に諸宗教間対話で親しい方々と共に開催しました。九つの異なる宗教の代表者が、本堂で順次それぞれの伝統に従って世界平和のための祈りを捧げ、その後、

しばらく小部屋に分かれて、粗茶で団欒しました。

特別なゲスト：今年のご来山客の内、特に記しておきたい方々としては、はるばるイギリスからご高齢を押してご來山くださったマイケル・L・フィッツジェラルド枢機卿です。4月末1週間のご訪問中、師は教会法が定める「年の黙想」をしたいとおっしゃり、瞑想と祈りに専念されました。フィッツジェラルド枢機卿様は、長年、教皇庁宗教間対話評議会(現在は諸宗教対話省)を率いておられ、ご在職中、たびたび真命山をご訪問くだ



さいました。この機会に、長崎大司教区長中村道明大司教様も真命山にお越しになり、枢機卿と御一緒に歓談して下さいました。

カトリック旅行社「パラダイス」の旅行団体の来訪：春と秋に、巡礼・祈り・瞑想のために関東からカトリック旅行社パラダイス企画のグループが来山されました。いつもながら、この旅行グループの方々は、深い霊的で兄弟的な雰囲気築いておられます。

日本国内外からの多数の訪問：国内外から、個人または数名で、さまざまな宗教の代表者を含む多くの方々が、ご来山下さいました。特に、熊本の立正佼成会のコミュニティ・リーダー渡辺恵子様とお二方がご来山下さいました。また日蓮宗国際諸宗教対話担当の原上人および釈上人がご来山下さり、二日間にわたり特に友好的な対話を重ね、次の対話予定についても話し合うことができました。そのほか、年末には福岡の白光真宏会の数名のご訪問もありました。



地区・国内・国際レベルでの対話活動



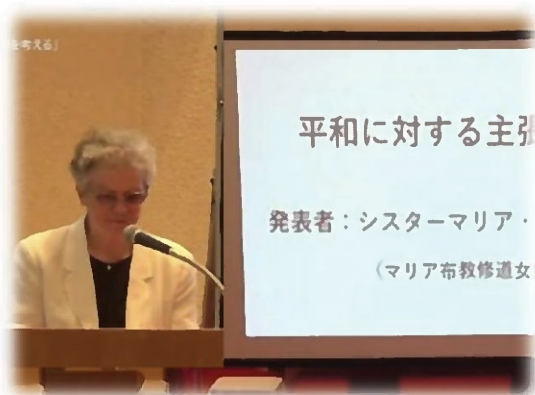
熊本地区の宗教間対話グループは、真命山を拠点にして、2月に八代市の求願寺（曹洞宗）、5月に熊本市の西福寺（浄土真宗）、7月に熊本の立正佼成会地元本部で実地見学と研修のために会合しました。いずれの会合も参加者の間に一層の関心を高め、誠実と友情を深めることができました。

6月には、玉名市の生命山シュヴァイツァー寺で行われた死刑囚西竹男の不当な処刑から50年目にあたり追悼式典があり、クラウディオ神父とシスター マリア デ・ジョルジが参加しました。これは死刑廃止を目指す重要な社会活動の一つです。

毎年なのですが、私たちは、佐賀県伊万里市の西念寺で行われた親鸞聖人の誕生日を記念する祭典にも参加しました。



福岡教区の諸宗教対話担当者であるシスター マリア・デ・ジョルジは、5月、福岡カテドラルで、ジョセフ・アベイヤ司教の臨席のもと、「宗教間対話と奉獻生活」をテーマにして講演しました。また8月12日、福岡教区が主催する「明日の平和について考える」というテーマの会議に参加しました。これは、日本のカトリック教会が毎年くりかえして主催する世界平和のための祈りと献身の週間の事業です。



8月4日、マリア デ・ジョルジは京都の比叡山で毎年開催される「比叡山宗教サミット」に出席しました。1986年に教皇聖ヨハネ・パウロ二世の呼びかけに応じて世界の様々な宗教の代表者がアツジに集まり、「世界平和のための祈り」の集いを催したことを継承して、比叡山でも1987年以後、毎年、諸宗教代表者とともに平和の祈りが捧げられています。

9月末、クラウディオ神父は熊本で開催された「現代社会における宗教と宗教の自由の役割」というタイトルの会議に参加し、現代社会における宗教の重要な役割についての考察を共有する機会を得ました。



国際レベルの諸宗教対話活動として、5月8日から16日まで、マリアはウランバートルのジョルジオ・マレンゴ枢機卿（モンゴルの使徒行政官）の招待をうけ、同枢機卿がモンゴルで活動する宣教師と牧師のために組織した司牧週間の事業に参加して講演しました。テーマは「仏教を背景にもつ社会における宣教と対話」でした。さらにマリアは、8月29日から30日にかけてシンガポールで開催された「バチカンとアジアの宗教間外交」をテーマにか

ける会議に参加しました。この会議は、シンガポールの「多宗教社会の中の宗教間関係研究プログラム（SRP）」と「アジア研究所（ARI）」が主催し、シンガポールを含む東南アジア四か国のフランシスコ教皇訪問に先立ち企画された準備作業の一環でした。マリアは「今日の日本におけるキリスト教と仏教の関係 社会的調和と対話への貢献」というテーマで発表しました。



一年間を通じて、マリアは多くのオンライン会議に参加しました。特に、バチカンの宗教間対話省が主催する「女性ネットワーキング」の月例会議は、宗教間対話における女性の関与とコミットメントを深めることを目的とし、世界中の様々な宗教学者や神学者が参加しています。また、イタリア司教協議会の宗教間対話とエキュメニズムの事務局が主催する仏教研究の定期会議にも定期的に参加しました。12月19日 マリアとフランコ神父は、諸宗教対話国際研究として「沈黙」を主題とする研究会の中で、「真命山 祈りと没我」をテーマにするインターネット会議に参加を要請され、ネット出席しました。

この機会に、熊本の上村道雄氏を感謝の気持ちとともに記憶に留めたいと思います。氏は93歳で6月12日に亡くられました。氏は1991年のグループ結成当初から亡くなる前日まで、熊本宗教間対話グループの貴重で愛される協力者であり、長年その事務局長を務めてくださいました。



最後に、今年も私たちの活動を友情、支援、そして宗教間対話参加で支えてくださったすべての方々に心からの感謝を申し上げます。

皆様に、神の平和と兄弟愛の祝福が満ちる新年でありますように心からお祈り申し上げます！

クラウディオ・コデノッティ神父、sx フランコ ソットコロノラ神父、sx
園田善昭神父、OFMConv, マリア デ・ジョルジ, mmx



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
名古屋 サダナⅡ *両方の週末に継続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	携上(かくあげ) 暁子 TEL: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 サダナⅡ *両方の週末に継続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	同上	同上
サダナⅡ	2/7(金)17:30～ 11日(火・祝)16:00	同上	都内施設 (受付にお問合せください)	来間(くるま) 裕美子※ 来間(くるま) 裕美子※ TEL: 090-5325-2518 sadhana79878@gmail.com *メールアドレスが変更 ました
サダナⅠ	2/21(金)17:30～ 24(月・祝)16:00	同上	同上	同上
札幌 サダナⅠ	3/7(金)9:30～ 9(日)(金)18:00	同上	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間 攝子 TEL080-3260-1864 本間不在時 山崎有紀 TEL090-4720-2157

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。

確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 13:30から

次回の予定: 1月16日

ジョンストン神父の『愛と英知の道』

第4章神秘主義と愛(105頁～113頁)

2025年度スケジュール

1月16日、3月13日、5月15日、7月10日、9月18日、11月20日

主催: **慈しみ深き会**

指導: ^{くのり}九里 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

